



天あつたのほくらりあつていふとあつたのほくらり
 のほくらりよあつたのほくらりあつたのほくらり
 のほくらりあつたのほくらりあつたのほくらり
 のほくらりあつたのほくらりあつたのほくらり
 のほくらりあつたのほくらりあつたのほくらり

文化よりの書

做西きとる

道る
 ち

二葉州集丙寅寒春之部

黃花葺升六編

正月

正月	四月のきとれあつていふとあつたのほくらり	アツて	千影
	四月や板とあつたのほくらり		圃丈
	正月城紙子あつたのほくらり	イカ	五粒
	四月や板とあつたのほくらり	アツて	雲古
	四月とほくらりあつたのほくらり	アツて	有葉
	四月乃板とあつたのほくらり	アツて	蓮臺
	正月や小板のちあつたのほくらり	アツて	方舟
			文角

初馬

さつゝ急の務のらへや初花

日向

千載

初夏

初山乃らむむ迄ぬく初めん

アノミ

圃友

初曆

初牛一初夏すす可く初

上毛

榮女

初曆

紫名初まきすもぬら曆

池田

真身

初曆

おさあしりり門田のなう先ん

イ六

瓜坊

初曆

初路や初とらつらまき初

大坂

越山

門松

門松もゆき手三白乃初

大坂

瑞言

初曆

せまき初門またり初

豊島

柳源

初曆

門松もゆき一の月れ初

奥三本松

橋若

初曆

かゝ初と初と初と子の初

西河

西河

蓬萊

蓬萊草や初せれ初

イヨ

一草

初曆

あまの初と初と初と初と初

去崎

無之助

初曆

あまの初と初と初と初と初

去崎

土口

門松に初と初と初と初と初

大坂

廉門

初花や初と初と初と初と初

大坂

涉士

門松の初と初と初と初と初

大坂

和水

初花の初と初と初と初と初

大坂

妻身

初花の初と初と初と初と初

大坂

松居

初花の初と初と初と初と初

大坂

初来

初花の初と初と初と初と初

大坂

尺艾

初花の初と初と初と初と初

大坂

蕉葉

初花の初と初と初と初と初

大坂

一草

初花の初と初と初と初と初

大坂

無之助

初花の初と初と初と初と初

大坂

土口

子日

松かやせしき連ふゆまの

計六

七草

里人の柳さたる子の日る

燕市

七草や口をれくぬる泉の家

芳之

七草や目たぬくも銀子草

榎

あつとや和歌の藪よあつと

支南

七草れねまう曲る烟火笑

醒支

若菜

あつとや川や女のまらる

かね女

七草のまらるる鳥小

自笑

夕顔の霜よりらわられ小

具笛

多れやもおれ白ひのあな小

武陵

るあつと白く二月のまら小

樹地

養文

とほげや教入るる又及びあつと

千乳

や入る浦乃きくすを教舞小

福丸

まら又入のまらまらあつと山小

外古

あつと舟入教入るるあつと

方珠

下草のまらあつとあつと

摺歩

あつと物やねもかへもまら小

ま雲

福草山もあつとあつと

金花

あつとあつとあつとあつと

浮水

あつとあつとあつとあつと

道表

あつとあつとあつとあつと

志馬

あつとあつとあつとあつと

桂家

藤棠

千名

〇 累のつめお耐入りゆりちり 真三 莫端
 〇 別原 スハウ 古梁
 〇 志 サカミ 笈嵐
 〇 梅 サカミ 丹人
 〇 〇 城中 百雨
 〇 西月 千ク のみサ
 〇 山 フハ 雲友
 〇 〇 五千 竹里
 〇 〇 一ヨ 槐洞
 〇 〇 在大坂 西岱
 〇 〇 葵風

〇 〇 梅の花 望白
 〇 梅 サカミ 白渚
 〇 〇 一ヨ 冬樹根
 〇 〇 妻我
 〇 〇 大坂 文老
 〇 〇 大坂 童子
 〇 〇 サカミ 宗煙
 〇 〇 サカミ 东舎
 〇 〇 麻佛

梅月

梅の月影一披ほりきり那
 月乃る是なるあまりて曇るは
 わかるといふれたる是の月影は
 雲とてあめりたき雲を月の影
 まるれとてあめりたき雲を月の影
 何うはきたる雲を月の影
 柳より雲よりかきあふみ
 とはくわく水汲りたる柳影
 分入るはれとてあめりたき雲を月の影
 松山より島乃りてゆるる雲を月の影
 甲よめてもあめりたき雲を月の影

有萱
 文雪
 或孫
 鬼園
 五寅
 嵐丈
 三成
 馬頂
 里勢
 古梁
 乙勢

木并

春の柳よりあめりたき雲を月の影
 海山より島乃りてゆるる雲を月の影
 之の月の影よりあめりたき雲を月の影
 青天より二尺あるやあめりたき雲を月の影
 観計の雲よりあめりたき雲を月の影
 ぬくもあめりたき雲を月の影
 雲影の柳よりあめりたき雲を月の影
 春の柳よりあめりたき雲を月の影
 川にわたりてあめりたき雲を月の影
 春の柳よりあめりたき雲を月の影
 春の柳よりあめりたき雲を月の影

如图
 菖蒲
 嵐平
 文雪
 宅子
 春人
 浮雲
 瑞雲
 生子

其意

丁の口のあけし能く余意成
 山中の池水底まで余意成
 其意成よむれえたる山梁
 堀正すちあもけるれ意成
 其意成たきし海辺の夕わさ
 夕風よ其意成もけし意成
 ちのうしき板あまけし意成
 白のうしろ敷りし意成
 まの意成ちえりし意成
 之白はあり降あまけし意成
 ねえれがよる乃ねりし意成

重塊
 羽白
 五赤
 美人
 嵐角
 千柳
 月化
 逢真
 古梁
 青空
 方舟

春雷

ねえれがよる乃ねりし意成
 何れうふあいつもくもく板外
 ねえれがよる乃ねりし意成
 ねえれがよる乃ねりし意成
 ねえれがよる乃ねりし意成
 ねえれがよる乃ねりし意成
 ねえれがよる乃ねりし意成
 ねえれがよる乃ねりし意成
 ねえれがよる乃ねりし意成
 ねえれがよる乃ねりし意成
 ねえれがよる乃ねりし意成
 ねえれがよる乃ねりし意成

唐終
 牛後
 杜由
 又寅
 板重
 の有
 柳丸
 青柳
 魯系
 空樹根
 玄回

芭蕉

東風
 人乃事々...
 夕も風や...
 秋も...
 春も...
 雨の...
 葉柳
 有管
 舟舟
 百亀
 浮琴
 六響
 鼎市
 浄土
 取白
 花吏
 怨園

若雨
 葉柳
 有管
 舟舟
 百亀
 浮琴
 六響
 鼎市
 浄土
 取白
 花吏
 怨園

貞十本

鶴

雪の降るやありとて白ちり
百ちりともいふやうに雪のちり

白雁 越山

松花

うらなふれ落るるをひく雪のちり

白雁

水鳥

松のしほのちりをひく雪のちり

方舟

白魚

あなをれついでより日あけ

之豆

ついでより日あけ
あなをれついでより日あけ
あなをれついでより日あけ
あなをれついでより日あけ
あなをれついでより日あけ
あなをれついでより日あけ
あなをれついでより日あけ
あなをれついでより日あけ
あなをれついでより日あけ
あなをれついでより日あけ

鴨茗 青柳 素閑 文書 玄寅

親

白くもやうにありとて白ちり

一陽

夕風うそまわらうとて白ちり

仙草

あなをれついでより日あけ

雪のちり

あなをれついでより日あけ

白雁

あなをれついでより日あけ

雪のちり

あなをれついでより日あけ

雪のちり

あなをれついでより日あけ

雪のちり

あなをれついでより日あけ

雪のちり

田標

あなをれついでより日あけ

雪のちり

カハナ

馬印

可省

初鮓	飯糟	海雲	海苔	梅巻
さくら鮓や白ひさひまきうの味	いりこおまをなごりてこり	きよ山の原はけりぬえ海をこ	あゆみれ作をたれぬ海をこ	海苔小貝信しくちうぬまの
来旭	来旭	ト仁	宗徳	喜空
越山	来旭	来旭	来旭	来旭

御忌	乃子猫
あはれや水のあさうまの味	あはれや水のあさうまの味
白漣	白漣

十四

廣

初虹

初高也やうはげれを終る
初虹をたきわらうて山をさす

圃丈
瑞る

初能

初能の初能をさす
初能の初能をさす

拵
拵

初午

初午の初午をさす
初午の初午をさす

一炊

初午の初午をさす
初午の初午をさす

古梁

初午の初午をさす
初午の初午をさす

一隔

初午の初午をさす
初午の初午をさす

拵丸

初午の初午をさす
初午の初午をさす

瑞馬

社日

社日の社日をさす
社日の社日をさす

遠臺

彼岸

彼岸の彼岸をさす
彼岸の彼岸をさす

子教

彼岸の彼岸をさす
彼岸の彼岸をさす

百尔

彼岸の彼岸をさす
彼岸の彼岸をさす

瑞る

彼岸の彼岸をさす
彼岸の彼岸をさす

文角

彼岸の彼岸をさす
彼岸の彼岸をさす

招宅

彼岸の彼岸をさす
彼岸の彼岸をさす

拵洞

彼岸の彼岸をさす
彼岸の彼岸をさす

徐来

彼岸の彼岸をさす
彼岸の彼岸をさす

浮水

彼岸の彼岸をさす
彼岸の彼岸をさす

必雲鳥

彼岸の彼岸をさす
彼岸の彼岸をさす

莫和

彼岸の彼岸をさす
彼岸の彼岸をさす

莫和

涅槃

涅槃の涅槃をさす
涅槃の涅槃をさす

莫和

炭竈子と云くは片の初極
 とくはさしつらふまきと云く
 杉のりてふ又付くはつ極
 初極くはまおとつて今迄
 赤く之く書くはおとくは
 江のくはせきと極敷のふ
 とくはさしつらふまきと云く
 びふ乃くはまおとつて今迄
 赤く之く書くはおとくは
 午まてはまおとつて今迄
 二月のまおとつて今迄

二有
 花陽
 小金
 負丸
 初厚
 布極
 乙校
 馬印
 重塊
 乙校
 六一

松巻 橋

穀極喜乃くはまおとつて今迄
 夕か付たつてまおとつて今迄
 かつたつてまおとつて今迄
 赤極天子おとつて今迄
 おろくはまおとつて今迄
 西乃乃くはまおとつて今迄
 何くは極系のつて今迄
 極乃乃くはまおとつて今迄
 紅赤乃くはまおとつて今迄
 畑赤乃くはまおとつて今迄

宜白
 義字
 文角
 乙赤
 如白
 炭氣
 徐来
 一陽
 乙校
 小金
 芳之

種蒔
 苗代
 細くうの中子 ぼり 不田一級
 瑞馬 有管
 子 秋
 約局
 葵風
 或花
 羨字
 瑞馬
 現急
 方珠
 老胡
 樂管
 細くうの中子 ぼり 不田一級
 瑞馬 有管
 子 秋
 約局
 葵風
 或花
 羨字
 瑞馬
 現急
 方珠
 老胡
 樂管

菜菔
 ちまうりり子月あてりり 九痛
 ちのふやとをわし 子乳
 菜のそをえく 子 笛
 ちのふ乃さくちたれ 宇栢
 菜のふや少路 二百のり 周甫
 ちのふ乃さくちたれ 大板
 ちのふ乃さくちたれ 左部
 ちのふ乃さくちたれ 桂秀
 ちのふ乃さくちたれ 馬頂
 ちのふ乃さくちたれ 羨字
 ちのふ乃さくちたれ 如件
 ちのふ乃さくちたれ 珍士

真三十五

蕨	茅苔	菅	猪活	花菜	芋	氷石
山姥の尻わらうまゝ	ふちれいらつひもあつて	草細やきし	うゝのまゝ	ぬるゝ乃	ゆゝのちのち	東野
芦月	圃丈	菅	五寅	葵風	葵和	東野

大根	横草	干草	葡萄	蕨	帰眉	芋
大根のふき	けりやれも	わらうち	まゝ	ぬるゝ乃	ゆゝのちのち	東野
菜和	菜和	梅香	芋	葵風	葵和	東野

田舎のこゝろすてあつて飯丁
 乙類
 三子
 正柳
 丁ののこゝろすてあつて飯丁
 警舟
 耕あけ乃甲子歌をうたふ
 方之
 船あつてあつてあつてあつて
 九蒲
 ろすやろすやろすやろす
 其心
 何急く由のたをえを海か
 柳宇
 海の子とあつてあつてあつて
 東登
 大根のこゝろすてあつてあつて
 蕉葉
 ちぢもあつてあつてあつてあつて
 芦川

切屑
 白膳
 ちぢもあつてあつてあつてあつて
 考哉
 提打子居あつてあつてあつて
 一の友
 引丁中風さあつてあつてあつて
 象逸
 是あつてあつてあつてあつて
 又角
 ちぢもあつてあつてあつてあつて
 六塘
 引膳れ卯あつてあつてあつて
 升古
 引鴨や汽等あつてあつてあつて
 瑞言
 鴨引てあつてあつてあつてあつて
 白膳
 坂口のあつてあつてあつてあつて
 乙類局

雛子

鳴川にて杉の子種ひくさ
 梅子ちう小字子落て鳴をた 紙中 宇栢
 夕を和おれおれを鳴初はり 紙中 丈左
 鳴たうぬさるよ入白のひさ 日白 九鼻
 ちを子鳴さ新 たり夕ひく イヨ 勢二
 云ははぬひくうのあうや風の 三廿 比良
 糸ひくうおむひくうしては 三廿 虎巻
 大空とをる花のむれとる 三廿 方珠
 おをくや雛子さえぬぬてを 三廿 燕柳
 雛の屋を川に指く入ぬ 三廿 宇洋
 雛鳴也有るも何しぬ 三廿 乙洞

焚

雛の尾乃るものあふる 紙中 荻莪
 四年たむねをくぬぬ 紙中 藤石
 糸あふく 紙中 魁園
 おけあふを 紙中 柳丸
 雛鳴やわれを 紙中 漱石
 ひくは 紙中 夜来
 まる天の 紙中 莖甫
 子 紙中 ち忍女
 ち 紙中 ち忍女
 つ 紙中 一
 一 紙中 一

三月部

三月

三月や人をさるるあす風乃さ

瑞る

三月

三月や於乃らるるあすあ

嶋若

三月

三月やとらるるあすあ

支角

三月

三月やとらるるあすあ

之子

三月

三月やとらるるあすあ

空里鳥

三月

三月やとらるるあすあ

梅香

三月

三月やとらるるあすあ

雪々

三月

三月やとらるるあすあ

雪柳

三月

三月やとらるるあすあ

浮水

三月

三月やとらるるあすあ

彦手

三月

三月やとらるるあすあ

可友

三月

三月やとらるるあすあ

松宇

三月

三月やとらるるあすあ

升六

三月

三月やとらるるあすあ

里熟

三月

三月やとらるるあすあ

淇水

三月

三月やとらるるあすあ

弱音

三月

三月やとらるるあすあ

木樹根

三月

三月やとらるるあすあ

梅香

三月

三月やとらるるあすあ

生白

三月

天子孝行を極めたりは天子の心
 けりしとておのれをさしはかた
 まう乃ておのれを極めたりは極
 極の心極めたりは極の心
 極めたりは極めたりは極めたりは極
 天子孝行を極めたりは天子の心
 けりしとておのれをさしはかた
 まう乃ておのれを極めたりは極
 極の心極めたりは極の心
 極めたりは極めたりは極めたりは極

老樹根
 仙芝
 術丸
 九箇
 宇洋
 正岱
 其成
 五城
 麻佛
 の友
 水洋

山極

有明を輝出たるさくらさくら
 けりしとておのれをさしはかた
 まう乃ておのれを極めたりは極
 極の心極めたりは極の心
 極めたりは極めたりは極めたりは極
 天子孝行を極めたりは天子の心
 けりしとておのれをさしはかた
 まう乃ておのれを極めたりは極
 極の心極めたりは極の心
 極めたりは極めたりは極めたりは極

比良
 道柳
 柳宇
 舊頂
 八子
 一海
 周南
 吳雪
 若外
 智周
 六徳

山極

李花

夏の花を李の花と云ふは依る所

ツカ

由春

連翹

連翹乃る花を李の花と云ふは

の春

躑躅

而あつて李の花と云ふは

相春

躑躅乃る花を李の花と云ふは

方春

山の花を李の花と云ふは

由春

山の花を李の花と云ふは

多氣

山の花を李の花と云ふは

仙臨

山の花を李の花と云ふは

升六

山の花を李の花と云ふは

仙子

藤

三月も大いなる花を李の花と云ふは

春上

藤乃る花を李の花と云ふは

兼也

山吹を李の花と云ふは

有管

山吹を李の花と云ふは

乙并

山吹を李の花と云ふは

乙并

山吹を李の花と云ふは

乙并

山吹を李の花と云ふは

乙并

山吹を李の花と云ふは

乙并

山吹を李の花と云ふは

乙并

山吹を李の花と云ふは

乙并

山吹を李の花と云ふは

乙并

萱

山吹

五月も大いなる花を李の花と云ふは

仙子

五月も大いなる花を李の花と云ふは

仙子

五月も大いなる花を李の花と云ふは

仙子

五月も大いなる花を李の花と云ふは

仙子

五月も大いなる花を李の花と云ふは

仙子

五月も大いなる花を李の花と云ふは

仙子

二葉艸集丙寅卷復之詠

黄卷葺升六編

四月初

四月	花散る大くきちるに有る	文角
	子脚もよのくに有る	古梁
	菽おぬたもぬきし	乙松留
	一里を新の江にゆ	生白
	山吹の吹あき	柳九
	山嵐乃何夜もあ	仙李
	る暇る海の浜	和来
	そりしあよりあ	楚湾

更衣	更衣有るく	有管
更衣	更衣有るく	の友
更衣	更衣有るく	比良
更衣	更衣有るく	葵風
更衣	更衣有るく	文香

白雲 青崖

青崖	あけやけ板石の	子歌
白雲	あけやけ板石の	仙童
	あけやけ板石の	青木
	あけやけ板石の	子歌
	あけやけ板石の	九郎
	あけやけ板石の	二子
	あけやけ板石の	菊石
	あけやけ板石の	牛心
	あけやけ板石の	真心
	あけやけ板石の	桃源

莫端	あけやけ板石の	子歌
小倉	あけやけ板石の	菜女
松宅	あけやけ板石の	清水
澁水	あけやけ板石の	掘洞
越山	あけやけ板石の	東舎
糸托	あけやけ板石の	升六
白崖	あけやけ板石の	子歌

夏夜
夫敷
短夜

わづくと花も散るすゝめ
夫敷の影も消へたる
海月の光も消へたる
うららかなる夜
麦青くぬる夜
うららかなる夜
短夜とちかくなると
短夜の新おとす
うららかなる夜
みーうねとちかくなると

仙子
生子
子未
相未
太一
守魂
管人
素人
牛後
柳中

夏夜

短夜のおもひ
みーうねとちかくなると
うららかなる夜
うららかなる夜
うららかなる夜
うららかなる夜
うららかなる夜
うららかなる夜
うららかなる夜
うららかなる夜
うららかなる夜

燕柳
素面
切張
魚心
菊也
瑞雪
菊男
蛇若
宇栢
仙阿
如園

夜日

夜日、此の日の光は、おぼろげな月の光の如きなり

星の雪

夜雲

夜雲、おぼろげな月の光は、おぼろげな月の光の如きなり

松尾

夜風

夜風、おぼろげな月の光は、おぼろげな月の光の如きなり

子氣

夜雨

夜雨、おぼろげな月の光は、おぼろげな月の光の如きなり

九二

夜川

夜川、おぼろげな月の光は、おぼろげな月の光の如きなり

し布

夜川、おぼろげな月の光は、おぼろげな月の光の如きなり

方珠

夜水

夜水、おぼろげな月の光は、おぼろげな月の光の如きなり

士口

夜海

夜海、おぼろげな月の光は、おぼろげな月の光の如きなり

如伴

夜笠

夜笠、おぼろげな月の光は、おぼろげな月の光の如きなり

圃丈

夜山

夜山、おぼろげな月の光は、おぼろげな月の光の如きなり

帽若

夜山

松尾

子氣

九二

し布

方珠

木とてきん苗四時す風乃星が
 あやゆの子はつ足らぬて時を
 拙きあるも世のよきもなほと見え
 ねとよん非くくくハ志つる時
 雲の物ふのぬきくくと作れ
 本とてきん時とて熱電うその時
 時をる家の内よりし四の存ね
 ちくくもふのぬねねと部と
 子親とて白あつても結くくも
 ねとてきんくくくくく苦極
 時をる者のねねと何るもくく

牛後
 有管
 支角
 又寅
 不徳
 栄兆
 乙黎
 文電
 桂露
 きゆせ
 宅子

布穀

たつ時を人ともくせんか人こそ
 虎林乃教はくぬけくか人こそ
 田一扱えはけくはくか人こそ
 教め乃端を治りてか人こそ
 軍右をる身渡つまきくく日暮外
 くらぬのぬる淋と鳴や軍右を
 軍右をる教の印くくくく人
 か人こそ時も鳴くくくく人
 夕をるや時んくくくく人こそ
 ひとくくくの教書くくくく人こそ
 くくくく柳くくくく人こそ

眞心
 赤十
 玄塊
 牛後
 不現
 嶺山
 三子
 一枝
 吟風
 義套
 草矢

ノボロ

吸塔

あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月

柳丸
何堂
柳齋
叔来
千影
升六
瑞馬
文常
の友
子彦
吉六

牡丹

あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月

月化
考系
醒支
白袴
百糸
来旭
風所
玄同
叔来
柳齋
有管

嬰葉花

あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月
あやふら本宮よりうへ橋の月

有管

山風より吹送る花たりく
花のまゝとあふもあつけ入る
あつけ花子のひもあつて花の
あつて花のあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて

乙姫
文角
里就
文雷
圃友
升六
砂壺
仙芝
仙草
白煙
柳里

燕子花

夏菜

あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて

土口
松満
文角
蒜石
若竹
片安
壽卜
仙草
柳香
松宅
菊男

蜀葵
葵
紫陽花

正徳

芙蓉尾

一八也々子育れぬ一乃奈

生子

百合

ゆきやその中より百合のふ

如更

紅花

大いふふ合皆之けてる花

雪口

芙蓉

あつたけき村の小口やそのふ

五原守

河骨

芙蓉のや田の火のあつ調かり

圃友

三浦花

河骨のしきしきあつて雨のふ

如伴

河骨のしきしきあつて雨のふ

如伴

河骨のしきしきあつて雨のふ

如伴

河骨のしきしきあつて雨のふ

如伴

河骨のしきしきあつて雨のふ

如伴

河骨のしきしきあつて雨のふ

如伴

河骨のしきしきあつて雨のふ

如伴

河骨のしきしきあつて雨のふ

如伴

河骨のしきしきあつて雨のふ

如伴

河骨のしきしきあつて雨のふ

如伴

河骨のしきしきあつて雨のふ

如伴

河骨のしきしきあつて雨のふ

如伴

河骨のしきしきあつて雨のふ

如伴

復州

復州のしきしきあつて雨のふ

如伴

如伴

草茂 嫩系

とこ迄しきりめりしちりの子
おのり入るひらりる子の属の
おのりかき流るる流るるわさ
おのりけりおのり一時の
流るる(と)おのりおのりわさ
おのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのり

梅越 若我 嵐丈 武陵 香坡 去々 藤川 去回 魯系 初冠 浄士

卯花

おのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのり

生白 柳中 素人 斗後 藤川 去々 魯系 初冠 浄士

卯花

象楳

ぬのふをすましく通る業意
くねむは孔疎うはくきり
象はくくくくくくくくく
え楳くくくくくくくくく
まはた九折まぬれて樂引の意
はすたくくくくくくくく
象楳やもくくくくくく
はなりの中よりぬれくくく
にちくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
江の裏乃浮世ぬくくく

百雨
魁園
雪口
乙類百
そく
羨乎
斗庚
圃友
三津人
若口
そ物

菴花

菴花

椰峇
標花

是のよきえをもちくくく
ふくくくくくくくく
椰乃ふくくくくく
ふ標くくくくくく
ぬの持持くくく
有明ぬくくくく
ぬのぬくくくく
柿ふ
栗花
ふ木立
浦風中かぬくく

小令
或花
志持女
月化
百尔
たう女
そく
梅丸
吐風
仙李
牛後

チクコ

木下書	とくわくく日新さるくお下やみ	李朝
	下やもやあおりのよねのめる	蕉葉
	下やもく板おまゝの戸にうぬ	年景
	とやしくも流をわくく木下書	百象
松屋系	ね志つゝゝゝの年万を敷松屋	樂書
	えきものゝまうく書乃松屋	瑞馬
許屋系	流きゝゝ布の流を松屋	漢字
病葉	わくく葉や舊も吹す年の中	生子
一板船	のゝ板船の志の原もたれあり	杜由
一板酒	有ぬの原もくゝゝ一板酒	比良
	月酒く待りやゝの長風	二有

青判	ま片や向もあゝ方の又	費庵
船	るまふうゝまゝかゝり船守	白酒
	たのふすゝゝゝ船の色	安之
初録	隣もた牡丹咲りうゝ船	女寅
	幼録え新り乃原の舟	雲賦
海月	川流や海月ゆゝゝ舟	謀一
海松	船波や海松ゝゝ船の志	一海

五十五

五十五

神子山の家山家の田植雨
植る可き力ある山家
こゝろはまじり七歳は田植
夕風一把をくまゝに
伴山家より山家田植の
鶴子く木田家の子
子乙女や二百はけり
子乙女れおられし
月夜にまじり山家の
月夜にまじり山家の
旅人のまじり山家の

古梁 未成 樂堂 芳之 士口

早乙女

青田

五月雨

概乃木八段葉もさく
ひよこさくさくさく
五月雨さくさく
霞列さくさく
新しきさくさく
五月雨のさくさく
五月雨のさくさく
五月雨のさくさく
五月雨のさくさく
五月雨のさくさく
五月雨のさくさく
五月雨のさくさく
五月雨のさくさく

升六 岳崎 春心 月化 有管 近春 芦丈 梅屋 あり友 西河 升家

五月雨

火取虫 火取虫 火取虫

雲

山はくや霧りの中をゆく雲、
夕風やそのうらうらけをちほき
心算のそよ風をわき吹てあそび
舟のゆくそよ風をわき吹てあそび
はるかなとそよ風をわき吹てあそび
あつちと火の雲よはるかなとそよ風をわき吹てあそび
友は月夜をゆくそよ風をわき吹てあそび
友は月夜をゆくそよ風をわき吹てあそび
友は月夜をゆくそよ風をわき吹てあそび

白雲 白雲 白雲 白雲 白雲 白雲 白雲 白雲 白雲 白雲

火取虫

戸のれそそ入るる子の音
定むとて印をききおき火取虫
火取虫のしむをむかふる音の南
三月の下よりそよ風をわき吹てあそび

南風 子歌 一の友 有管 習之

蛭牛

蛭牛れはあつちをゆくそよ風をわき吹てあそび
蛭牛やあつちをゆくそよ風をわき吹てあそび
静かなる音をききおき火取虫
蛭牛やあつちをゆくそよ風をわき吹てあそび

蛭牛 蛭牛 蛭牛 蛭牛 蛭牛 蛭牛 蛭牛 蛭牛 蛭牛 蛭牛

蛭牛

蛭牛の音をききおき火取虫
蛭牛の音をききおき火取虫
蛭牛の音をききおき火取虫
蛭牛の音をききおき火取虫

北洋 馬糞 蛭牛 蛭牛 蛭牛 蛭牛 蛭牛 蛭牛 蛭牛 蛭牛

蛭牛

摺紙

摺乃咽く大向をみせしる篇
 月夜くひるより赤き摺川糸
 野子摺強りけし。旭之糸
 心くく先より片を、摺繩子
 ちくちくやある摺河の摺の篇
 余文の折乃れは摺のよる篇
 ぬる墨れ強もゆも摺川糸
 折風のまをくし。よある摺舟糸
 ちくうけて戸にもゆく摺舟糸
 ほろり摺のたまたま摺舟糸
 若のまをれあけりうも了摺舟糸

摺夏
 比良
 太一
 明之
 雲友
 字指
 素例
 六一
 正盛
 麻佛
 菘聖

火事

照射

麻子

袋角

扇子

短木のくしをこゆる火事
 着とゆる照射のかけし雲糸
 ちくし。まをて宿、小まを、縁糸
 たか、は、紙、皆、く、す、麻、舟、糸
 提灯のたすも、ゆ、く、麻、舟、糸
 袋角山、糸、よ、く、ま、ゆ、け、た、う
 ちくく、や、ま、あ、ま、ま、ま、ま、袋、角
 有、明、や、ま、の、ま、ま、ま、ま、袋、角
 目、ま、ま、の、ま、ま、ま、ま、袋、角
 満、月、や、ま、ま、ま、ま、ま、袋、角
 志、め、く、く、ま、の、ま、ま、ま、袋、角

青柳
 瓜坊
 越山
 李翁
 比良
 白涯
 瑞る
 由来
 安立
 子親
 嵐角

落葉 旅人よとあるものなりし所なり
落葉の織子よとありし所なり

夕風 夕風よとありし所なり

花 花よとありし所なり

六月款

六月 六月乃りし所なり

六月 六月乃りし所なり

六月 六月乃りし所なり

六月 六月乃りし所なり

六月 六月乃りし所なり

六月 六月乃りし所なり

六月 六月乃りし所なり

六月 六月乃りし所なり

六月 六月乃りし所なり

六月 六月乃りし所なり

六月六日

六月六日

おれをさくらんていへんおれをさくらんていへん
雲友

水雲山なるの志しむる下り
蕉葉

遠東の事いふはむむおれをさくらんていへん
其川

不二指 ハウキ
不二指をさくらんていへんおれをさくらんていへん
倭風

音しるるをさくらんていへんおれをさくらんていへん
瑞馬

友板 千石
友板柳もさくらんていへんおれをさくらんていへん
玉周

播磨の事いふはむむおれをさくらんていへん
遠東

麻の事いふはむむおれをさくらんていへん
越山

葎 ハウキ
葎の事いふはむむおれをさくらんていへん
越山

力海乃さくらんていへんおれをさくらんていへん
士口

葎 ハウキ
葎の事いふはむむおれをさくらんていへん
瑞馬

葎 ハウキ
葎の事いふはむむおれをさくらんていへん
芭蕉

おれをさくらんていへんおれをさくらんていへん
芭蕉

青嵐 ハウキ
青嵐の事いふはむむおれをさくらんていへん
牛後

柳をさくらんていへんおれをさくらんていへん
圃友

さくらんていへんおれをさくらんていへん
若哉

おれをさくらんていへんおれをさくらんていへん
柳軍

西風をさくらんていへんおれをさくらんていへん
瑞馬

青嵐をさくらんていへんおれをさくらんていへん
若泉

夕立 ハウキ
夕立をさくらんていへんおれをさくらんていへん
升六

おれをさくらんていへんおれをさくらんていへん
不説

夕立をさくらんていへんおれをさくらんていへん
不説

夕に之に上りてゆくも心なる
夕に之に上りてゆくも心なる
夕に之に上りてゆくも心なる
夕に之に上りてゆくも心なる
夕に之に上りてゆくも心なる
夕に之に上りてゆくも心なる
夕に之に上りてゆくも心なる
夕に之に上りてゆくも心なる
夕に之に上りてゆくも心なる
夕に之に上りてゆくも心なる

春
水
仙
千
碧
浮
生
水
金

書

夕に之に上りてゆくも心なる
夕に之に上りてゆくも心なる
夕に之に上りてゆくも心なる
夕に之に上りてゆくも心なる
夕に之に上りてゆくも心なる
夕に之に上りてゆくも心なる
夕に之に上りてゆくも心なる
夕に之に上りてゆくも心なる
夕に之に上りてゆくも心なる
夕に之に上りてゆくも心なる

古
茶
仙
未
升
仙
水
物
者
生

日

暑

雲
納涼

早よりの涼を子に流す所の山
魚の窟へくもる如き人
魚乃くくはあつき夕
いよよ思ふ涼を
百乞れ遠あつくる
笑をれは
夕良の
柳あり
あか
松風を
月更

舊頂
後嵐
珠石
杉長
二有
生良
乙良
瑞馬
嵐角
三子
きぬ

涼

清水

新ありの
又
涼風の
あ
涼
う
涼
新
ま
青
涼

六
秀
有
千
牛
年
激
初
相
南
由

夜寝
冷汁

夜々をや寝るもつふ板敷し
鶴葉の風を吹く冷汁

文角

冷汁や月を方の山に

和氷

冷汁はちりもはるる遊戯

雪白

冷汁まろくして又ゆるむ花

葵

瓜

瓜は甘きもすしきはひの

瓜

心太

心太人れはくうのええま

心太

心太の山乃増えくさる

心太

百足

秋風乃吹遠く不ひ

百足

金鼓

金鼓吹く遊戯の志

金鼓

錦花

錦花はくさるる花の

錦花

錦花の山乃増えくさる

錦花

錦花の山乃増えくさる

錦花

麻州

麻州の山乃増えくさる

麻州

蒲州

蒲州の山乃増えくさる

蒲州

藤州

藤州の山乃増えくさる

藤州

藤州の山乃増えくさる

藤州

藤花

藤花の山乃増えくさる

藤花

蓮

蓮の山乃増えくさる

蓮

蓮の山乃増えくさる

蓮

あけなれき只とてえよきま運れむ

長守

秋錦花

秋錦の弱き只似す秋錦は

千鶴

嬰雀

おとしこれあはれりし松乃中

馬印

松子やうらやうらとみおぼし

龍虎

千目紅

子目紅はまじりて似ゆる人

ねね女

夕歌

夕のるのちうておよ入やとて

不素

○夕歌平にゆきおれかゝる天の川

合気

夕のるのちよきあけりあはれ市

古六

夕歌のりしちりしく人さぬ

四酒

ゆのあや秋をささぐぬ是有秋

墨友

夕歌のちりしちりしく人さぬ

草丈

夏歌

ひらつはきききききききききき

南順

ひらわあや何事たのしむははう

花交

ねきあやや夏歌はあはれあはれ

嵐角

○夏歌のちりしちりしく山入境

子枝女

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

半洋

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

又宮

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

文友

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

未靴

青芒

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

燕柳

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

極月

蚕

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

鳥頂

京都
尚学堂

2002.9.20

1000-

此本乃... 朝の...

此本何年... 云云...

